



教職大学院のメンバー

TOYAMA ていーちゃーず 第1回開催レポート カレッジ

先輩のリアルにふれる。
先生になりたい」気持ちを確認できた一日。

富山で教員をめざす人のための「TOYAMAていーちゃーず カレッジ」が開講しました。第1回は、現職の先輩教員との座談会や県教育委員会によるガイダンスを通して、教職のリアルに触れる一日となりました。

9月23日（火・祝）、県民会館で「TOYAMAていーちゃーず カレッジ」第1回が開催されました。

富山で教員をめざす人を対象にした全4回シリーズの初回となる今回は、県内の現職教員として活躍する教職大学院の先輩たちと直接語り合える貴重な機会となりました。

生徒と一緒に悩みながら 自分も成長していける仕事

午前10時、全体会場にて開会。冒頭ではカレッジの辻本学長が「教職という仕事の魅力を、現場の声から感じ取ってほしい」と語りかけ、温かな拍手の中で第1回がスタートしました。

最初のプログラムは、教職大学院8名の先輩教員を交えた座談会です。4つの部屋に分かれてグループごとに先輩たちの話を聞きながら、ローテーション形式で交流を深めました。先輩教員として参加したのは、特別支援学校や小中学校、高校など、さま



教員の一を紹介

ざまな現場で活躍する先生方です。「特別支援学校では、一人ひとりの成長の瞬間に立ち会えるのが大きなやりがいです」

「中学校では生徒と一緒に悩みながら、日々自分も成長していける仕事だと感じます」といったリアルな言葉に、学生たちは深くうなずきながらメモを取っていました。

一日のスケジュールや放課後の過ごし方、授業準備の工夫など、どの部屋でも「本音トーク」が展開されました。



県教育委員会から

富山ならではの教育 そして、そのやりがい

続いて行われたのは、富山県教育委員会によるガイダンス「富山で先生になるうー！」です。

担当者からは、富山県の教育環境や教員の待遇、働きやすさなどについて紹介がありました。

県内では「通勤はどこでも40分圏内」という生活環境の良さに加え、給与や住居手当などの条件面も全国的に見て恵まれています。

また、ICT教育の充実や「新時代とやまハイスクール構想」など、県独自の教育ビジョンにも触れながら、「ワクワクする教室、学校、そして、ふるさととやま」を一緒につくっていきましよう」と呼びかけました。

最後の質疑応答では、学生から「富

「生徒にとっての『今日』を大切にしたい」「同僚と助け合える環境をどうつくるか」など、現場でしか聞けない具体的な話に、参加者からの質問も尽きませんでした。

「先生って忙しいイメージがあったけれど、それ以上に楽しさや達成感を感じていることが伝わりました」「実際に自分が教壇に立つ姿を想像できました」と、学生からは前向きな声が多

く聞かれました。

午後は、受講生同士の情報交換会からスタートしました。

午前中の学びを共有しながら、「どんな先生になりたいか」「どんな学校で働きたいか」といったテーマで意見を交わしました。大学や学年の垣根を越えて語り合う時間は、互いの考えを刺激し合う貴重なひとときとなりました。

人の成長を喜べる人こそ、ぜひ教員に。

辻本 努「TOYAMAていーちゃーずカレッジ」学長インタビュー



分の目で確かめてほしいと思います。」

「これから教員をめざす学生へメッセージをお願いします。

「完璧な先生になる必要はありません。子どもたちと同じように、先生も日々成長していく存在です。誰かの力になりたい」という気持ちを大切に、仲間と支え合いながら歩んでほしいですね。」



受講者との懇談

山で教員として働く魅力は？」「転勤の頻度は？」など、具体的な質問が次々と寄せられました。

「地元で貢献したい」「子どもたちの成長を支える先生になりたい」という言葉があちこちから聞こえ、会場には終始前向きな雰囲気満ちていました。

第1回を終え、ある参加者は「先輩や県の方々の話を聞いて、教職という道がよりリアルに感じられました。これからの学び方も変わりそうです」と話していました。

「憧れ」が「目標」へと変わるきっかけとなった今回の研修でした。

* 次回（第2回・11月3日）は「面接対策講座」と「コミュニケーション力アップ講座」を予定しています。みなさんの参加をお待ちしています！